

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		白百合女子大学		設置者名		学校法人白百合学園		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成21年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
文学部	児童文化学科 児童文学・文化専攻	50人	幼一種免	平成17年度	71人	34人	31人	12人
			小一種免	平成17年度			18人	
	国語国文学科	100人	中一種免(国語)	昭和42年度	121人	26人	22人	12人
			高一種免(国語)	昭和42年度			22人	
	フランス語フランス文学科	100人	中一種免(フランス語)	昭和42年度	126人	9人	0人	3人
			高一種免(フランス語)	昭和42年度			0人	
	英語英文学科	100人	中一種免(英語)	昭和42年度	95人	11人	7人	3人
			高一種免(英語)	昭和42年度			7人	
入学定員合計		350人	合計		413人	80人	107人	30人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成22年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成22年12月1日（水）

実地視察大学：白百合女子大学

実地視察委員：梶田叡一委員、大坪治彦委員、渡辺三枝子委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・ 1学部4学科1専攻において、教員養成を行っている。

<講評>

- ・ 教員養成に関する教育課程、教員組織等については、概ね基準は満たしているが、いくつか改善が求められる点がある。
- ・ 教職課程認定を受けていない専攻において、他専攻の科目を聴講し半数以上の学生が教員免許を取得していることについて、早急に教職課程の見直し、組織体制や教育カリキュラムを再検討すること。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・ 建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づいた教育理念に従い、「社会との接点においてカトリック精神を生かすことができる」教員を養成することを目的としている。
- ・ 幼、小、中、高の全ての教員養成の課程認定を受けており、幼・小や小・中など隣接する免許間の連続性を意識している。

<講評>

- ・ 教員養成に対する理念は示されているが、実際の実践と乖離が見られる。教員養成に対する理念を具体化するために、全学的な組織や体制を整えてほしい。
- ・ 学校種間の連続性については、カリキュラム上見えてこないため、具体的なカリキュラム等を検討し講義に活かしてほしい。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

- ・ 期末試験を15回の授業の中で行われているが、授業時間は15回確保するよう改善すること。
- ・ 一部シラバスにおいて、免許法上含むべき事項が明示されていないため、シラバス上確認できるよう明示して欲しい。
- ・ 教職に関する科目の名称について、課程認定申請の手引に示している科目名称例に沿った名称とすることを検討してほしい。
- ・ ‘教育相談の理論及び方法’の科目が、カウンセリング技術だけの内容となっているため、科目の趣旨をふまえ適切な内容とすること。

- ・中学校の課程では各教科の指導法を8単位開設する必要があるが、各教科の指導法が6単位しか開講されておらず、2単位不足しているため、開設すること。
- ・教育実習について、同一科目名称で単位数の異なる科目があるが、履修する学生や、免許状授与に際して都道府県教育委員会が混乱することのないよう、異なる科目であることが分かるような名称をつけることが望ましい。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・幼稚園については、学生の希望を考慮の上で、大学が実習園を配当し依頼する。
- ・小学校、中学校、高等学校については、東京都へ公立学校での実習を申請するか、学生本人が母校での実習を依頼して実施している。

<講評>

- ・中・高では母校実習が主となっているが、母校実習は中央教育審議会でも大学側の対応や評価の客観性の確保の点で課題も指摘されており、同一法人内の姉妹校等と連携をとるなどして、できるだけ避ける方向で検討して欲しい。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・教科又は教職に関する科目として「教育体験Ⅰ・Ⅱ」を開講し小学校において学習指導等を行っているほか、大学共通科目として「ボランティア体験Ⅰ～Ⅳ」を開講し、近隣の小学校や福祉施設などでのボランティアを行っている。
- ・学校ボランティアの依頼があれば、校内での掲示や関連授業において呼びかけを行っている。

<講評>

- ・教育ボランティアに関する学生への掲示情報等があまり見られなかった。学生が積極的に参加できるよう、ポスターを掲示するなど、学生が自然と興味を持てる様な情報提供の手段を工夫して欲しい。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・学生への指導は、教務部資格課程課において履修相談を行っているほか、教職に関わる教員において、随時相談を受け付けている。

<講評>

- ・課程認定を受けていない児童文化学科発達心理専攻のほとんどの学生が免許状を取得しているなど、学科専攻と履修上の教職課程との関係があいまいであり、組織体制や教育カリキュラムを再検討すること。

- ・ 小学校の免許課程を担当する教員については、細かな免許制度についても理解し、学生に対する履修指導ができるようにして欲しい。
- ・ 教職の指導室が置かれていることは評価出来る。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・ 来年以降、教職センターを設置し、全学的なカリキュラム編成や実習などを担当することとしている。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・ 各学科の研究室には各教科の専門図書が揃えられている。
- ・ 図書館の学習指導要領や教科書の配置については、教職を履修する学生が使用しやすいようまとめるなど、配架を工夫すること。
- ・ 幼の課程があるものの、実習等で使用する紙芝居等が揃っていないため、充実させること。
- ・ 理科実験及び家庭科実習に使用できる多目的室は能率的な設計となっている。